

La Movado

Fondita en 1951 N-ro 764 oktobro 2014

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ôsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO
Tohurô minami 2-8-7, Dazaihu-si, Hukuoka-ken, 818-0105

ESPERANTO-LIGO de TYÛGOKU kaj SIKOKU
Ôgonzan-tyô 7-15, Minami-ku, Hirosima-si, 734-0041

ENHAVO

第99回世界エスペラント大会参加記 浮田政治 1-2、5
語尾なし単語の使い方(22) 相川節子 2
楽しい作文教室(40) 塚本猛 3
Kajero libervola: Vivo kaj verkoj de Kishida Ryusei MATSUMOTO Midori 4
対訳: 風(2) 竹久夢二/沖恵明 5
Pri la 99-a Universala Kongreso Internacia Koruso..... Akira 6
..... Kiujn programerojn mi partoprenis TAHIRA Masako 6	追悼: タニさんの思想をたどることがタニさんへの恩返し
..... 白井裕之 8	Japanaj Malnovaj Rakontojより(10) 飯食わぬ女房..... 9
..... 楽譜: Suna Loko..... SIMATANI Takesi 10	サンチャゴ・デ・コンポステーラ巡礼旅(1)..... 忍岡妙子 11
Salono: 西千寿子、寺本敏高..... 12	Vortaro por lernantoj (145)..... Laŭlum 13
La Movado: KS、東かがわ市で人形展、高知、はりま..... 13	Vortkruca enigmo/作文教室課題..... 14
..... 訃報: タニヒロユキさん..... 15	Mikspoto/作文教室成績/KLEC事務局だより..... 15
..... 編集ノート..... 16	

多彩なプログラム、街の活気

第99回世界エスペラント大会参加記

浮田政治 (大阪府)

ブエノスアイレスで開かれたUK99に参加した。今回は、JEI旅行団のお世話になった。7月25日、10時5分関空発のLH741便でフランクフルトに向かった。15時過ぎに着き、成田からの皆さんと合流した。ブエノスアイレスに向かうLH510の出発は、7時間後の22時5分なので、市内見物に出かける方々もあったが、私は空港内でゆっくりすることにした。旅慣れた堀泰雄さんが用意したゲームで遊ばせてもらったりして、楽しく過ごしているうちに、外出組の皆さんが帰ってきた。ほぼ定刻に離陸し、翌26日7時過ぎに無事着陸した。空港から迎えるバスに乗り、40分ほどでホテル“NH Tango”に着いた。一同、ロビーに集合して挨拶の後、部屋割りを受け、一旦各室に落ち着いてから30分後にそろって主会場に行った。主会場は、“7月9日通り”をはさんで“NH



Bankedoで、UEA会長と

Tango”の真向かいに建つホテル“Panamericano”である。立派なホテルだが、緑星旗も目につかなかった。うっかり

すると通り過ぎてしまいそうだった。

受付は、地下1階にあり、大会資料を受取ってから、各会場の部屋を確認してまわった。開・閉会式、“Nacia Vespero”、“Movada Foiro”は別の場所だった。Movada Foiroは19時からなので、近辺を散策して軽食後、一服のつもりで横になったのが間違いだった。目覚めた時は終了15分前、折角の予定をふいにしてしまい、後味が悪くて嫌な予感がした。

7月27日(日)、劇場“Teatro Metropolitan”での開会式には、個人的な事情が発生し、出席できなかった。西森公男さんをお願いしてメールで写真を送っていただいた。

この日は、“Hispana Eksprese”、“Kongresa Temo”、“Bankedo”に参加した。そして今回は積極的に考えていなかった“Internacia Arta Vespero”に思い切って出場の登録をすることにした。

講座 Hispana Ekspreseは、説明に理解が追いつかなくて、途中で諦めてしまった。

“Kongresa Temo: Ĉu la nepoj nin benos? Streboj al daŭripova estonteco”は4回にわけて開かれ、提起された課題について討論があり勉強になったが、皆さん発言が長くて時間不足を感じた。

思いがけない出会いがあった。Internacia Arta Vespero への登録に急いで向かう途中、ĈEL (Ĉina Esperanto-Ligo) の青年に声をかけられた。時間が迫っていたので、ブースへ挨拶に行きすぐに失礼させていただくことになってしまい、心残りだった。

“Bankedo” は広い会場の真ん中に “Kongresa Balo” のスペースを大きくとってテーブルが配置されていた。今回も、適当に乾杯、前菜から食べ始めた。ワインは 2 杯目から自腹負担となっていた。料理の品数は多くないが、分量が多いので食べきれない。UEA 会長の Mark Fettes さんは気さくな人で、各テーブルを回って交流を楽しんでいた。Kongresa Balo が始まると、だんだん人数が増え、楽しい雰囲気でおおいに盛り上がった。大会ならではの友好交流の一こまである。

大会日程に目を通し、参加するプログラムを決めていたが、遠国を訪れた折角の機会を大切にしたい強い思いがあったので、見直して思い切って整理、日程にゆとりを作ったのはよかったが、大会中、予定の変更が案内掲示板に小さい字でメモ書きされ、気がつかず慌てるのが何度かあった。また、当初から参加を予定していた分科会 “Ĝemelaj Urboj” は、急用が生じて部分参加になってしまい、大変残念だったが、関心を持っていた “Prelego pri Argentino” には 7 回のうち 4 回参加できた。

大会期間中の遠足は、3 日目の半日遠足 “Urba rigardado tra Bonaero” と、5 日目 (大会休日) の 1 日遠足 “Gauĉa tago en bieno” を楽しんだ。バスでの市内巡りは、中心部から郊外に及んでいて、興味深く勉強になったが、長い説明が退屈だった。1 日遠足は、町を遠く離れた大草原の農地で乗馬と荷馬車で村巡りを楽しんだ。ここでの昼食は、焼肉が主体のご馳走だった。次々と出される大盛りに仰天した。ここでマテ茶の回し飲みが勧められたが、私はパスさせてもらった。食後、村娘と村人の踊りがあり、その輪に加わって大勢で楽しく踊った。数組の家族連れも来ていた。子ども達は無邪気で可愛い。

“冒険は禁物” であるが、街を一人歩きしていると、人々の暮らしのようすがよく見える。明るくて活気があり、市民のたくましく生きる姿に親しみを感じた。街の中心を南北に走る大通り “7 月 9 日通り” は、最大幅約 140m、16 車線の規模 (p.5へ)

初心者のための

語尾なし単語の使い方(22)

相川節子

この号から、前置詞をとりあげます。

前置詞に関しては、小坂狷二著「前置詞略解」のようなすぐれた解説書があります。ただ、初心者の場合、詳しくすぎる解説書を読んでも、混乱するだけであまり益はないと、個人的な経験から思います。

この連載では、詳細な文法的説明や語義はさておき、とりあえずこれだけ知っていれば日常会話はできる、というレベルの説明をするつもりです。

エスペラントの前置詞は全部で 33 個。動詞 *fari* からつくられた *far* を入れば 34 個になります。(2013 年 1 月号に、「本来副詞は 30 個」と書きましたが、34 個の間違いです。いまごろになって間のぬけた訂正で、申し訳ありません。)

前置詞(1) *al*

「～の方向へ」という意味の単語です。

La rivero Kisogawa fluas al la golfo Ise.

(木曾川は伊勢湾に流れている)

La balono leviĝis al la ĉielo.

(風船は空に向かってあがった)

物理的な方向だけでなく、心理的に「～に向けて」という意味でもよく使います。

La edzino skribadis leterojn al la edzo en malliberejo.

(妻は、刑務所にいる夫に手紙を書き続けた)

Mi sopiras al la hejmloko en kamparo.

(いなかの故郷が恋しい)

Ŝajnas al mi, ke li estas bona homo.

(彼はいい人だとわたしには思える)

エスペラントにはいわゆる熟語は少ないのですが、*al* を使う熟語でよく出会うのは、*de tempo al tempo* (時々) と、*de loko al loko* (あちこち、ところどころ) です。覚えておいて損はありません。

それから、エスペラントの活動の中でよく出会う *al* の合成語に *aliĝi* があります。大会や合宿などのイベントに参加を申し込むことや、団体に加盟することなどを *aliĝi* と言います。参加申込書は *aliĝilo* です。世界大会への参加は、まず *aliĝilo* を書いて送ることから始まります。



①私の老猫は、ほとんど一日中眠っている。

【訳例 1】 Mia maljuna kato dormas preskaŭ tutan tagon. (Drako, ikona, Ivajo, M.H., CA)

【訳例 2】 Mia maljuna kato preskaŭ tuttage dormadas. (Ĉielo)

【訳例 3】 Mia maljuna kato dormadas preskaŭ tra la tuta tago. (Eiko)

ほとんど：preskaŭ.

「老猫」は年をとった猫なので、maljuna kato のように分けて表現します。grandaĝa (高齢の) も良いと思います。年長者は pliaĝulo、成人なら plenaĝulo です。kaduka (老衰した、危うい) だと少しかわいそうな気がします。

preskaŭ は、完全ではなく少し不足する状況を表す副詞です。「一日中」は訳例 1 のように対格を使って la tutan tagon としたり、前置詞 dum (～の間)、tra (～中) を使います。訳例 2 のように tuttage (丸一日) にしても良いですね。動詞側に tradormi (寝て過ごす) を使って、tradormi la tagon と表現することも考えられます。

②おもちゃも紐も猫の興味を引かない。

【訳例 1】 Nek ludiloj nek ŝnuretoj interesas la katon. (Drako, Kiri)

【訳例 2】 Nek ludilo nek ŝnureto interesas la katon. (水渡, ikona, Ivajo)

【訳例 3】 La kato ne interesigas pri ludilo nek pri ŝnureto. (M.H.)

おもちゃ：ludilo.

子猫の頃は、いろんなものに興味を持って、叩いたり、飛び跳ねたりします。カード karto や紙玉 paperbulo、鈴 sonorileto でも良いおもちゃになります。いろんなおもちゃということで ludiloj と複数にする方が良いと思います。

最初は、あらゆるものが子猫の興味を引き、ĉio interesas katidon 状態ですが、時間が経つと、だんだん無視するようになります。interesi に接尾辞 -ig を付けて interesigi (興味を持つ) にする場合は、訳例 3 のように、対格は使わず、前置詞 pri や en を使用します。

nek (～もない) は否定を並べていうときに使います。否定の強調ではありませんので、注意が必要です。強調する場合は eĉ (～でさえ) を使います。家の猫は紐やこよりで遊ぶのが好きだったので、近頃では eĉ ŝnureto ne interesas ŝin (紐さえも興味を引かない) です。

③そしてめったに走らない。

【訳例 1】 Kaj ĝi kuras nur malofte. (T.Ku, Ivajo)

【訳例 2】 Kaj ĝi preskaŭ ne kuras. (Kiri)

【訳例 3】 Krome la kato kuras tre malofte. (Fumi)

「めったに～ない」は、ほとんど起こらないさまなので、malofte や preskaŭ ne に対応します。malofte は訳例のように nur (～だけ) や tre (非常に) で強調できます。

回数は少ないのですが一応走るの、否定を並べるわけではありません。「そして」には、krome (ほかに)、plie (さらに) など使えらるでしょう。もし訳例 1 で kaj の代わりに nek を使うとか、ne kuras malofte にすると、「まれに走らない」、つまり「しばしば走る」となり、題意と違ってしまいます。なお、原文には主語が明示されていませんが、各人の思い入れもあり、la kato から li, ŝi, ĝi と三人称単数の代名詞が揃っていました。

④しかし、少なくとも椅子には跳び上がる。

【訳例 1】 Sed ĝi almenaŭ povas salti sur seĝon. (水渡)

【訳例 2】 Sed li povas salti almenaŭ sur seĝon. (M.H.)

【訳例 3】 Tamen li almenaŭ povas salti sur seĝon. (AG)

「しかし」は sed か tamen(それでも)が使えます。逆接であることを強調して sed tamen とすることもできます。また tamen は sed とは違って、文の任意の位置に置くことができます。

「少なくとも」は、最低限でも、あるいは、他のことはさておき、という意味ですので、almenaŭ がぴったりです。apenaŭ (かろうじて) も肯定的ではありますが、ここで使うと、「精一杯やって、かろうじて椅子に跳び上がることだけは出来る」という意味になるでしょう。課題 1 で kaduka を使ったのであれば、老衰した猫の様子が apenaŭ で表現できると思います。

成績は 15 ページ、12 月号の課題は 14 ページ

「麗子像」で知られる画家、岸田劉生の多くの作品は人に見せるために作られたのではない。自分の愛するものを一生懸命描いている。

Bonvolu rigardi la suban pentraĵon, kies titolo estas "Vojo farita tra monteto"(1915) . En la verko subite konverĝas muro kaj vojo kvazaŭ ili direktiĝas al la ĉielo konkure unu kun la alia. Dekstre de la deklivo daŭras digo kun freŝaj naturaj arbustoj, arboj kaj herboj. Dume, maldekstre troviĝas artefarita blanka muro. Du elektraj fostoj ĵetas ombrojn teren. La ĉielo estas blua kun iom da nuboj pentritaj per nur malmulte da oleo. La aŭtoro pentris ĝin laŭ kruta perspektivo. Li ignoris eĉ ne unu ŝtoneton sur la bazo de la deklivo. La ŝtoneto sur la antaŭa plano rimarkigas al ni lian delikatan pentro-manieron. Li metis sur ĝin kaj helan kaj malhelan kolorojn por esprimi klar-obskuron de la ŝtono. Krome, li metis blankan punkton sur ĝin per peniketo por esprimi la rebrilon sur la ŝtoneto. Ankaŭ herbojn ĉe ambaŭ flankoj de la vojo li detale priskribis.



Vojo farita tra monteto (切り通しの写生)



Rideto de Reiko(麗子像) gepatrojn. Li vizitadis preĝejon kaj renkontiĝis kun la pastro TAMURA Naoomi, kiun lia patro profunde respektis en siaj lastaj jaroj. Ryusei fervore laboris por la dimanĉa lernejo. TAMURA rekomendis al li fariĝi pentristo en la estonteco pro lia fajra karaktero. En sia 15-a jaro li ĉesis iradi al mezlernejo kaj ekvizitadis la atelieron, kiu nomiĝas "Hakubakai Tameike". Tie li ricevis instruadon de la oleopentristo KURODA Seiki. Dume, Ryusei estis instruisto en la dimanĉa lernejo kaj entuziasma kristano. Li baptiĝis. Oni diras, ke li fariĝis kristano, ĉar li malĝojis, ke liaj gepatroj sinsekve forpasis.

En 1910 famaj japanaj verkistoj fondis la revuon "Shirakaba (betulo)". En 1911 Ryusei vidis fotojn de la verkoj de post-impresionistoj, ekzemple, Van Gogh kaj Cézanne [sezan], en la revuo. Post tio li imitis la pentro-manieron de Van Gogh. Sed same kiel aliaj oleopentristoj, kiuj imitis pentro-manieron de impresionistoj kaj post-impresionistoj, li ne sukcesis kompreni verajn plastikon kaj teorion de ilia pentroarto, sed nur admiris ilin kiel heroojn, kiuj batalis kontraŭ akademiecaj pentristoj kaj akceptigis al ili la valoron de siaj verkoj. Kiam li rimarkis tion, li ricevis influojn de la pentristoj en la germana Renesanco, ekzemple, Dürre, kaj ek prezentis fidele kaj detale motivojn.

Tiam naskiĝis la famegaj pentraĵoj, la portretoj de lia filino Reiko kaj lia edzino Shigeru. Mi opinias, ke Ryusei pentris modelojn, kiujn li amis en sia ĉiutaga vivo.

風

(2)

竹久 夢二

すると、こんどは大通（おどおり）から横町の方へ風が吹きまわしたので、幸太郎の帽子も、風と一緒に、横町へ曲ってしまいました。そしてそこにあったビール樽のかげへかくれました。幸太郎は大急ぎで、横町の角まで来たが、帽子は見つかりません。

「ぼくの帽子がないや」

幸太郎は、もう泣きだしそうになって言いました。帽子を連れていった風も、幸太郎を気の毒になってきて、

「坊ちゃん、私が見つけてあげましょう。」そういって、ビール樽のかげの帽子のしっぽを、ひらひらと吹いて見せました。幸太郎は、すぐ帽子のある所を見つけました。

「万歳！」

幸太郎は、帽子の尻尾をつかんで叫びました。

「風やい、もう取られないぞ！」幸太郎は、帽子のつばを両手で、しっかり握っていいました。

「ほう、ほう」風はそう言いながら、飛んで行きました。エプロンも、木の葉も、紙屑もまたダンスをしていたけれど、幸太郎の帽子はもうダンスをしませんでした。

(終)



desegnis GOTO Mitsu

Vento

(2)

de Takehisa Yumezi

tradukis: OKI Keimei

Ĉi-foje la vento blovis kaj turnis sin de la vasta strato al flanka strato, tiel ke ankaŭ lia ĉapelo turnis sin en la flankan straton kune kun la vento. La ĉapelo kaŝis sin malantaŭ bierbarelo en tiu strato. *Kôtarô* haste venis al la angulo de la flanka vojo, sed li ne povis trovi ĝin.

"Mi ja perdis mian ĉapelon!"

Kôtarô diris preskaŭ plorante. La vento, kiu prenis kun si la ĉapelon, ekkompatis lin.

"Knabo, mi trovu la ĉapelon por vi."

La vento tiel diris kaj blovante montris al li la voston de la ĉapelo malantaŭ la bierbarelo. Li tuj trovis la lokon de la ĉapelo.

"Hura!"

Li kaptis la voston de la ĉapelo kaj kriis.

"Hej, vento! Vi jam ne povos ĝin forpreni de mi!"

Li firme tenis la randaĵon de la ĉapelo per ambaŭ manoj kaj diris.

"Ho, ho!" dirante tiel la vento flugis for.

Kaj la antaŭtuko, kaj la folioj, kaj la paperruboj ankoraŭ dancis, sed la ĉapelo de *Kôtarô* jam ne dancis. (fino)

(p.2より) を誇り、通りに立つオベリスク（高さ68m）はブエノスアイレスの視覚的シンボルであり、道標としてよく見える。

“Nacia Vespero”は、大会開催国の夕べとも言えるプログラムで、民族音楽に合わせて男女が踊る楽しくて迫力のある民族舞踊は、見ごたえがあった。

Internacia Arta Vespero は国際色豊かに、歌、舞踊、暗誦、楽器演奏、コーラス等々 14 演目が演じられた。私は、美空ひばりの“リング追分”を尺八で演奏させてもらった。最近、コーラスの人数が少ない気がする。

8月2日の閉会式は、57カ国から706人が集つ

た大会の総括らしく、いい雰囲気だった。会場はほとんど空席がなかった。UEA 会長 Mark Fettes さんの挨拶は、個性的で長く、大会のまとめに踏み込んだ感があった。2時間余に及んだ次第の中で、今大会のために働いた多くの人達の労が労われた。最後に大会旗が次の開催地リール（フランス）の代表に引き継がれ、会長がテーブルに打ち下ろした木槌の音で大会の幕が閉じられた。

今大会では、貢献者や顕著な活動業績が評価された人達の表彰があり、日本の後藤斉さんが、著述“Biografia Leksikono de la Esperanto-Movado en Japanio”によって受賞されたことを誇らしく思う。

Internacia Koruso

Akira (Gihu)

Unuafoje mi aniĝis al la Internacia Koruso en mia kvinfoja UK.

La koruso konsistis el ses viroj (tenoraj, basaj) kaj dekelkaj virinoj (sopranaj, kontraltaj) kaj nin gvidis la reĝisoro, s-ro *Alan Bishop*. Lia edzino helpis lin.

Ni kvarfoje provludis entute kvin kantojn, kaj kantis efektive du kantojn sur la scenejo de la Internacia Arta Vespero. Oni rajtis kanti en la Arta Vespero, kiam li ĉeestis en la provludoj almenaŭ trifoje. Por kontroli tion ni ĉiufoje skribis nian nomon sur papero, sed mi dubas la severecon de la regulo.

Estis ne tre facile kapti la melodiojn de la kvin kantoj en la limigita tempo ne nur por mi, sed por ne malmultaj korusanoj. Dume kelkaj kapablis rapide lertiĝi en la kantado.

Muziknotojn ni devis ĉiufoje redoni al la reĝisoro, kaj ricevis ĝian kompletan nur en la antaŭa tago de la Arta Vespero kontraŭ dek pesoj (tio estis severa!).

S-ro *Alan Bishop* gvidis nin tre milde, kaj do ni provludis trankvile kaj senstreĉe. Malgraŭ mia iom malbona sanstato dum la kongresa semajno, mi sufiĉe amuziĝis kantante en la komuna lingvo kun la homoj el diversaj landoj.

Okazis la Arta Vespero en la 1-a de aŭgusto, vendredo. Kompare kun aliaj artistoj ni estis sufiĉe bona artistaro aŭ ne, mi ne certas. Estis sendube, ke ni akiris grandan aplaŭdon.

En la sekvanta tago okazis la Solena Fermo. La lasta sceno estis komuna kantado de "La Espero". La prezidanto de UEA alvokis, "Venu la koruso sur la podion!". S-ro *Alan Bishop* min suprentiris sur la podion. Kiam mi staris inter gesinjoroj *Bishop* la kantado jam iris al la dua strofo, kiun mi ne povis kanti parkere. S-ino *Bishop* tenis la kongresan libron malfermitan ĉe la paĝo de la kanto, sed la literoj estis 2014.10

tro malgrandaj por esti videblaj. Mi kantis malklare, sed laŭte la melodion. Mi sentis min kunfandiĝinta kun tuta kongresanaro.

Estis surpriza kortuŝo.

Kiujn programerojn mi partoprenis en Bonaera UK?

TAHIRA Masako (Kioto)

***Komitato de UEA 1+2** Kiel evoluas UEA. 2 el 7 estraranoj de UEA ne povis ĉeesti, sed skajpe partoprenis. El Japanio komitatanis *Saito Tume* kaj *Syozi Keiko* (anstataŭ *Sibayama Zyun'iti*). Reta voĉdono aprobite.

***Movada Foiro** Ĉe la budo de JEI kaj JEJ sufiĉis deĵorantoj. Mi helpis KAEM, SAT, ATEO. Kial KLEG ne aliĝas?

***Solena Inaŭguro** Salutis estraranoj de UEA, sekretario de Bonaera Eduka Komitato (parte Esperante), prezidanto de LKK. Mesaĝo de *Zalesky Zamenhof* legite. Festparolis la prezidanto de UEA *Mark Fettes* kongresteme "Ĉu la nepoj nin benos? Streboj al daŭripova estonteco". Salutis TEJO, ILEI, Akademio de E, SAT, landaj asocioj. El Japanio *Kitagawa Ikuko* reprezentante de JEI.

***Estraro respondas-Jarraporto 2013** Kiel multigi membrojn. Mi raportis, ke en Japana Kongreso okazas kunsido "Delegita Reto". Interesajn artikolojn de "Esperanto" de UEA mi prezentas al ne-membroj kiel varbilojn.

***Kongresa Temo 1+2+3** pri "daŭripovo" kun "mediprotektado", "daŭripova agrikulturo" kaj "edukado".

***SAT** Mi publikigis la mesaĝon de japanaj junaj SAT-anoj, kiuj eldonas studentan gazeton "Paŝo". Iu opinias, ke UK kaj SAT-kongreso kuniĝu. Mi kontraŭis, ĉar UEA celas "por E" kaj SAT celas "per E". Se ambaŭ okazos en la sama loko unu post la alia, bonvenas.

***Kongresa Balo** Diskestro *Leo Sakaguchi* scias, ke mi amas valson kaj tangon. Sed mankis partnero. Bruajn muzikojn mi dancis kun

junuloj ĝis la noktomezo.

***UEA-seminario Konsciigo 1+2** Ni estas movado por justa multlingveco, por malferma komunikado, por tutmondeca edukado.

***UEA-seminario Kapabligo 1+2** Aktivula Maturigo (AMO), E-centro, Vikipedio, Terminologia E-centro, KER-ekzameno.

***UEA-seminario Komunumo 1+2** UNESKO-rezolucio en Montevideo 60-jariĝis.

***Kleriga Lundo** Komuna Katalogado.

***Komitata Forumo-Konsciigo**

***Komitata Forumo-Kapabligo**

***Komitata Forumo-Komunumo**

***Komitata Forumo-Kunordigo**

***Nacia Vespero** Danco de argentina tango.

***KAEM** Prezidanto de KAEM malestis. Neniu KAEM-ano kongresis. Prezidis *Hori Jasuo*. *Suzuki Keiichiro* raportis pri japana movado. Vjetnamio, Nepalo, Koreio, Ĉinio pri sia movado. *Nitta Takamichi* pri JEJ-movado. Ĉinaj Trezoro *Huang Yinbao* kaj *Semio Sun Mingxiao* bone laboras sialoke. N-ro 84 de "Esperanto en Azio" je 400 ekzempleroj eldonite. Dank'al KAEM 130 malriĉaj azianoj membriĝis al UEA. Mi raportis pri la kontribuo de japanoj en la 1-a Indonezia Kongreso en 2013 kaj la 1-a Irana Kongreso en 2014.

***Koncerto** *Supernova* (juna kaj brua) kaj *Manuel* (maljuna kaj dolĉa).

***Delegita Reto** Kun nova ĉefdelegito *Doi Hirokaz*.

***TEJO sinprezentas**

***Arabaj dancoj** Virino bele dancis. Kial ne kun viro?

***CO respondas** Jarlibro de UEA papere kaj rete eblas. Uzitaj poŝtmarkoj helpas financon de UEA je kelkcent eŭroj jare. Kial malriĉa UEA ne trovu sponsoron? Emeritaj oficistoj de CO volontulas senpage.

***ATEO** Ateista Tutmonda Esperanto-Organizo. Mi neas teisman, ĉar homoj faris Dion, ne Dio faris homojn.

***Kantado de La Espero** *Hori Jasuo* prezidis. 3

sukcesis kanti parkere.

***KER-ekzameno** Mi ricevis la atestilon de C-1, okazinta en majo ĉe KLEG.

***Koncerto de Nico Aloisio** (juna).

***Strategia Forumo** Kiel plibonigi UK-ojn.

***Oratora Konkurso** La 1-an premion ricevis brazilano, la 2-an kaj la 3-an germanoj. Mi bedaŭris mankon de japanaj junuloj.

***Aŭkcio** Osmo Buller aŭkciis.

***Internacia Arta Vespero** *Ukita Masaharu* ludis bambuan fluton (ŝakuhaĉo). Oni flutis, violonis, kantis, dancis, deklamis, korusis. Plej plaĉis al mi aktorado kiel *Ĉaplin* fare de ino.

***Hororfilmoj** "La fiulo" kaj "Tra la Muro". Partvoĉe aktorin *Fujii Yumiko*.

***Solena Fermo** Raportoj pri kongresaĵoj inkluzive de futbalmatĉo de E-teamo venkita de Bonaera teamo. Rezulto de belartaj konkursoj. Fondaĵo Grabowsky honoris *Marjorie Boulton*, Premio Deguchi iris al la eksredaktoro de "Esperanto" *Stano Marĉek*, Diplomoj pri Elstara Agado al 7 personoj kaj organizoj inkluzive de *Gotoo Hitosi* pro la kompilado de "Biografia Leksikono de la E-Movado en Japanio". Dankletero iris al 50-jaraj kaj 40-jaraj membroj de UEA, inkluzive de *Yamasaki Seiko*, *Huĝimoto Tacuo*, *Sawaya Yuuiti*. Mi anstataŭricevis por *Huĝimoto Tacuo* kaj transdonis al li post la UK.

Mi lernis, kiel labori kaj kritiki por UEA, kiel prezidi kunsidojn. Ĝis Lille, Francio en 2015!

2015年の第100回世界大会(フランス、リール)に、KLEG旅行団を企画しています。

「モバード誌検索閲覧ソフトDVD」を

関西大会で購入された方へ

関西大会会場で上記DVDのNo.23とNo.27を購入された方、KLEG事務局までお名前をお知らせ下さい。年末に追加のデータをお送りします。

タニさんの思想をたどることが

タニさんへの恩返し

臼井裕之(北京)

わたしのタニさんに関する印象は、ともかく大阪の人というものだった。わたしは東京生まれの東京育ちなので、タニさんと日常的な活動をしていたわけではない。でもタニさんが亡くなってみると、いろいろお世話になっていたことに気が付かされる。

タニさんとの付き合い

最初にタニさんに会ったのはいつだったろう。少なくとも1980年代の後半、和歌の浦であったFriska Lernejoでは一緒だった。わたしは大阪から乗る電車を間違えて、とんでもない大回りをしてしまった。タニさんにそう言うと、目を細めて「そんな間違いをする人があるとは思わなかった」と笑った。1990年代には1年間SATに入ったが、すぐにやめてしまった。perantoはタニさん。数年間は、大会なので会うと「また入ってくださいよ～」と声を掛けられて閉口した。

ここまでは普通のエスペ란ティスト同士の付き合い。ところが1998年からわたしはエスペラントを研究すると称して、夜間の大学院に通うようになった。若輩者のくせにJEIに言語権シンポジウムの企画を持ち込んだりもした。こうしてタニさんと、研究者としての付き合いが出てくるようになる。

もっとも研究者なんて言っても、あの頃はそんな内実はなかった。言語権シンポジウムは木村護郎さんとわたしが中心になっていたのだが、二人とも若くて、シンポジウムを仕切ることなどできない。タニさんにパネリストだけでなく、総司会もやっていただいて、なんとかその場をしのいだ。そのときのタニさんの活躍は『ことばへの権利』(三元社)を見ていただきたい。

タニさんが縁結びの神様

さらにこの頃にわたしは、後に結婚する山本真弓(やはり大阪人)と知り合うのだが、山本と会ってすぐに話が盛り上がったのは、彼女がタニさんと同じ大阪外大出身だったおかげ。タニさんはモンゴル語専攻、山本はヒンディー語専攻である。彼女はタニさんとは知り合いではなかったが、タニさんの後輩である藤井幸之助さん(朝鮮語専攻)とは昔から

仲が良かったからである。

藤井さんは言語権シンポジウムのパネリストだったし、前述の和歌の浦のFriska Lernejoにもタニさんに連れられて来ていた。タニさんがわたしたち夫婦を引き合わせてくれたようなものである。

しかしタニさんの縁結びはそれだけではなく。当時、山口大学の教員だった山本が、同大の集中講義でエスペラントを取り上げたいと言い出した。彼女と付き合うようになったのは、この集中講義のすぐ後だったから、こちらの方が決定打かもしれない。

それはともかく、タニさんは2001年の9月、山口大学で集中講義をすることになった。そのときは田平正子さん、Hylco Miedemaさん、新田隆充さん、それにわたしが山口に集結したので、「講師1人に助手が4人もついた」と冗談を言ったものである。

タニさんの思想をたどるには

しかしこのあたりから、わたしは自分のやるべきことが社会と言語の関係のなかでエスペラントを捉えていくことだと思うようになって、タニさんとはちょっと疎遠になっていった。

今、タニさんの残して行った仕事を見ても、やはり一番重要なのは『簡明エスペラント辞典』、そして亡くなる直前に刊行された『簡明日エス辞典』であろう。辞書を作るのも言語内的な仕事である。これらの辞書を作る作業のなかで、タニさん自身、これこそが自分のライフワークと感じる瞬間があったのではないだろうか。

そう考えるともちろん若すぎる死ではあるが、タニさん自身、自分のやるべき仕事をきちんとやり終えて旅立ったことには満足しているはずだと思う。

わたしは昔から辞書作りのような地道な仕事は出来ないと思ってきて、今もその考えは変わらない。ただ次に日本に帰ったときにはタニさんの辞書を手に取ってみたい。そこにこそタニさんの思想が宿っているような気がするからだ。

それからもう一つ、タニさんの残したモンゴル文学の翻訳を読んでみたい。『エスペラントとグローバル化』の巻末にも翻訳が一篇載っているが、ネットで検索してもタニさんの訳がいくつか出てくる。そうやってタニさんの仕事からタニさんの思想をたどることこそ、タニさんにお世話になった者のすべきことではないかと思われるのである。

El “Japanaj Malnovaj Rakontoj”
de YANAGITA Kunio
柳田國男作「日本の昔話」より（10）

Edzino kiu manĝas neniom (飯食わぬ女房)

Ankaŭ ĉi-fojon, antaŭ longa longa tempo en iu vilaĝo loĝis unu tinfaristo. Iun vesperon li eliris eksteren, kaj pisante li diris al si mem: “Ho, ha, kiel mi volus havi edzinon kiu manĝas neniom!”

Nu, en tiu sama vespero lin vizitis nekonata virino kaj diris: “Ĉu vi estas tiu tinfaristo, kiu deziras havi edzinon manĝantan neniom? Ĝuste mi estas tiu kaj estas diligenta laboremulino. Bonvole prenu min kiel vian edzinon.”

Kaj malgraŭ lia persista rifuzo ŝi ne volis foriri. Do vole nevole li prenis ŝin kiel sian edzinon kaj lasis ŝin resti en la domo.

Efektive ŝi laboris plej energie kaj manĝis neniom, sed, oni ne scias kial, la rizprovizo multe malmultiĝis dum li rimarkis neniom.

Li pensis tion stranga kaj unu fojon volis vidi, kiel la afero iras. Preparinte sin iri por laboro li forlasis la domon, ŝtelgrimpis sub la tegmenton kaj tie sin kaŝinte observadis la malsupron.

Baldaŭ la edzino metis grandan kaldronon sur fornon kaj mezuris abundon da rizo el pajlsako kaj lavis ĝin *sak, sak*, kaj komencis kuiri ĝin. Kaj poste ŝi alportis grandkvanton da misoo el la tenejo kaj boligis misosupon planan en kaldronego kaj ĝin ĉerpis per granda kulero en tinon. Post tio ŝi demetis pordotabulon, ĝin kuŝigis sur la ŝtupon de la kuirejo, la kuiritan rizon formis en grandan bulon unuj post aliaj, kaj metis ilin laŭvice sur la tabulon.

Kaj sekve ŝi malligis disdise la harojn. Jen, aperis granda faŭko en la supra de la kapo, ankoraŭ unu. En ĝin ŝi enĵetis la rizbulojn unuj post aliaj kaj po kulero da misosupo unu post alia, alterne, kaj antaŭ liaj okuloj la virino formanĝis ĉiom da supo kaj rizbuloj en mallonga tempodaŭro. Kaj poste, ŝi religis la harojn en ordo, kaj fariĝis ĝentilmiena edzino, kia antaŭe ŝi estis.

Ŝi ja estis *Yamahaha*. “Ho ve, kian monstrinon mi prenis kiel edzinon! Antaŭ

ĉio mi devas forpeli ŝin kiel eble plej frue,” tiel li pensis kaj revenis kun terpolvo sur la pajlsandaloj, kun la flegma mieno nenion rimarki.

“Kvankam vi manĝas neniom, vi ne taŭgas por la mastrino de mia hejmo. Volu foriri, ĉar mi donos al vi kion ajn laŭ via bontrovo.”

Ŝi respondis: “Do, mi foriros, tial faru por mi unu grandan tinon, mi petas.”

“Nenio estas pli facila ol fari tinon.”

Kaj li baldaŭ faris ĝin: *Yamahaha*-edzino profitante lian momentan senatenton, abrupte donis al li puŝon ke tiu lasta falis en la tinegon. Kaj kun la tinego sur la kapo ŝi rapide reiris en la direkto al montosino. Kvankam la tinfaristo ĉiel provis eskapi el la tinego, ĝi tamen estis tro granda por elsalti.

Dume, la vojo pli kaj pli kondukis sur la monton; grandaj arboj staris sur unu flanko de la vojo kaj iliaj branĉoj tuŝis krakkrake la randon de la tinego. Baldaŭ *Yamahaha* dum momentoj ekhaltis sub unu arbo kaj prenis paŭzon.

“Nu, venis bona ŝanco!” tiel li pensis, kaptis pendantan branĉon, kaj per siaj etenditaj brakoj el la tinego li povis elsalti el la ujo. Ŝi rimarkis neniom, iris internen al la monto kun la malplena tinego sur sia ŝultro. “Mi devas forkuri profitante tiun ŝancon.” Li retrokuris laŭ sia plenkovo. Ŝajnis ke ŝi eksciis tion, ŝi returnis sin kaj komencis postkuri lin rapide.

“Ŝi kaptos min antaŭ ol mi atingos la vilaĝon. Ĉu ne troviĝas ie kaŝejo?” Li rigardis ĉirkaŭen. Ĝuste akoroj kreskis dense en seka riverujo de tiu valo kaj en la sekvanta tereno same artemizioj. Li do kaŝis sin inter la herbojn duspecajn. Ŝi persekutanta ankaŭ sin ĵetis tien.

Tamen tre feliĉe por li, akorfolio pikis al ŝi la dekstran okulon, kaj artemizitigo la maldekstran.

Ŝi tuj blindiĝis kaj falis en la fluon de la valo, mortis kaj forfluis el lia vidkampo.

Laŭ onidiro tiu ĉi okazis la 5-an de majo. De tiam oni poste nomis la tagon Kvinamajo kaj ekkutimis tegi sian tegmenton per la duspecaj herboj, artemizio kaj akoro, kaj bani sin en varma akvo kun ties folioj metitaj en ĝin por ke neniam plu okazu tia malfeliĉo, kia trafis la tinfariston. Jen tiel mi aŭdis.

(Kawai hideo)

Suna Loko (哀しみのソレアード)

muz. Antonio Zaccara da Teramo

poez. SIMATANI Takesi



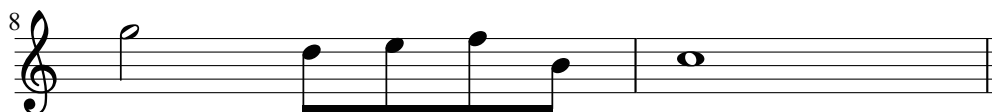
1) Je su-na flank' vi-vas mi en mont'. Je fo-ra
 2) En la te - ren' be-le en aũ - tun' Ma-tu-ris
 3) Mi en de - prim' si-dis en an - gul'. Kaj la a -
 4) Je su-na lok' vi-vas mi en mond'. Be-la e -



blank' ŝaũ - mas ma - ra ond'. Su - pre
 gren' sub bon - ko - ra sun'. Ne - ĝe
 nim' sin - kis en ne - bul'. Ti - am
 pok' de a - mi - ka rond'. Su - pre



flu - gas bird', te - re ku - ras best'. Ĉi - u kun
 fros - tas vent', sed ni ĉe ka - men' jam en kon -
 ve - nis vi, si - dis a - pud mi. Pro sim - pa -
 flu - gas bird', te - re ku - ras best'. Ĉi - u kun



mild' vi - vas en mo - dest'.
 tent' si - das sen pro - men'.
 ti' plo - ris vi kun mi.
 mild' vi - vas en mo - dest'.

- 1) Je suna flank' vivas mi en mont'.
 Je fora blank' ŝaŭmas mara ond'.
 Supre flugas bird', tere kuras best'.
 Ĉiu kun mild' vivas en modest'.
- 2) En la teren' bele en aŭtun'
 Maturis gren' sub bonkora sun'.
 Neĝe frostas vent', sed ni ĉe kamen'
 jam en kontent' sidas sen promen'.
- 3) Mi en deprim' sidis en angul'.
 Kaj la anim' sinkis en nebul'.
 Tiam venis vi, sidis apud mi.
 Pro simpati' ploris vi kun mi.
- 4) Je suna lok' vivas mi en mond'.
 Bela epok' de amika rond'.
 Supre flugas bird', tere kuras best'.
 Ĉiu kun mild' vivas en modest'.

サンチャゴ・デ・コンポステーラ巡礼旅(1) 連帯と交流の道

忍岡 妙子 (広島エスペラント・センター)

定年退職した5年前の夏、ビヤリストクの世界大会でサンチャゴ巡礼を紹介する分科会がありました。フランスのエスペランティストによる写真と語りに魅了され、体力・気力のあるうちにやってみたいと思いました。

スペイン北西部の聖地サンチャゴ・デ・コンポステーラをめざす巡礼は、最盛期の12世紀には年間50万人ともいわれ、17世紀まで続くサンチャゴ巡礼はヨーロッパとイベリアを結ぶ動脈となりました。その後巡礼者は減りましたが、1980年代から再び、現代の巡礼者が世界中から訪れるようになり、現在では年間10万人といわれています。Camino de Santiagoは1993年にユネスコの世界遺産に登録されました。

この6～7月に50日間、念願の巡礼を実行しました。ルートはいろいろありますが、フランス国境近くのサン・ジャン・ピエ・ド・ポーからサンチャゴまでの800km。「フランス人の道」と言われている最も一般的な道で、道標・目印もしっかりしており、アルベルゲ(巡礼宿。2段ベッドが並び、シャワー、トイレ、自炊キッチンが共同。公営5～7ユーロ・私営8～10ユーロ)も道筋に整備されています。さらにサンチャゴから大西洋側フィステーラ(地の果て)まで85km。

様々な人々が様々な理由・方法で、黄色の帆立貝印・矢印に導かれて野山を越え雨の日も照りつける日も道を辿ります。筋肉痛・マメ・疲れとともに歩く巡礼者に共通しているのは「サンチャゴに行きつく」という意志。巡礼者同士、地元スペインの人々からも必ずと言っていいほど、出会ったときや追い越し追い越されるとき、「Buen Camino(よい巡礼旅を)」「Buenos dias(こんにちは)」「オラ(やあ)」とあいさつをします。

歩く途中も、一休みのBarやカフェでも、アルベルゲでも、「どこから来たの?」から始まってマメの手当て法の交換や交流の後「がんばろうね」と別れます。歩き方は人それぞれですから一期一会がほとんどですが、似たような歩調で何度も顔を合わせ、「同志」の連帯を感じる人々たちもあります。

① 巡礼道の国際連帯

私が最も警戒していたのは屋久島トレッキングでも、デンマーク旅行でも襲われ、その度に不思議に

周囲の援助で救われた「両足こむら返り」です。今回は筋肉補強サプリや湿布薬も購入し、一応の準備はしていましたが、初日に最大級のそれが来ました。サン・ジャン・ピエ・ド・ポーから登りつめてピレネー越えの26kmは無理だと思い、足慣らしのつもりで8km地点で宿泊の予定でした。出発時からの雨。ずっと登り坂で全財産リュックの重みに慣れず、レインポンチョの下は雨と汗でずぶ濡れ、靴も靴下もずぶ濡れで一足ごとに重くなり、ゆっくり歩いてはいたものの、2時間歩いてそれが来ました。雨の泥山道で座り込んで苦しんでいた私を通りがかりのドイツ男性が介抱してくれ、イギリス男性が自分の薬を処方し、イタリア母娘がマッサージをしてくれ、スペイン・バラハス空港職員5人組も救援に参加し、30分以上も雨の中を私のために奮闘してくれました。やっと二人の男性に両脇を支えられて1歩ずつ歩きだすと、救援チームは私の荷物を分担して運んでくれて、なんとかオリソンのホテルまで辿り着きました。私の守護天使たちは、さらにピレネーを越えていくというので、私はみなさんに熱いスープで感謝。いささか不名誉な初日のおかげで、サンチャゴ巡礼の国際連帯を実感しました。

② アルベルゲでの交流

道筋には多くの公営・私営アルベルゲがあります。修道院や信徒会などが寄付で運営する昔の巡礼者救護院の伝統を受け継ぐアルベルゲもあり、オスピタレーロ(アルベルゲの世話人)も巡礼の側に立った細やかな気配りで世話をしてくれるところがあります。マメの手当てをしてくれるところも。Tosantosでは、オスピタレーロが先頭に立ってみんなで料理をし、みんなで祈りをささげていただき、片付けました。夜はみんなが集まって巡礼の祈りと交流の会。一日の疲れが癒され明日もがんばろうと勇気が湧いてきます。Bercianos del Real Caminoでは、3人が世話をし(2週間交代、彼女たちも巡礼の途中)、みんなで夕食準備や片づけを手伝いました。夕食時間にスピーチや歌で交流。各国の人たち40人程がいる中で、私はエスペラントで自己紹介をやってみました。Corcubionでは夫婦の世話人が料理をし、夕食後は賑やかなおしゃべり。

宿泊者はイタリア人、スペイン人でしたから、ここでも私はエスペラントで参加しました。(続く)



Corcubionのアルベルゲ



Nord-Amerika Somera

Kursaro に参加して

西千寿子 (京都府)

1970年に始まった NASK (Nord-Amerika Somera Kursaro)、今夏はカナダ・ヴィクトリア大学で、今までの最高 43 人を抜いて、8 か国 63 人の参加により 6 月 30 日～7 月 7 日に開かれました。

9:00～12:30 初級中級上級に分かれて授業。最初、初級に行ってみたのですが、翌日から中国で活躍中の白井裕之さんが講師の中級に移りました。幾つもの教材を準備され、講義のほか、歌やゲーム、生徒間の論議の発表や宿題の読み上げなど、毎日あっという間に時間が過ぎました。議論好きな生徒も多くて、時には講師がいささか振り回されている風情もありました。

午後・夕方は講師、学習者の誰でも前もって名乗り出るとプレゼンを行える時間でした。一緒に参加した H さんは持参の着物で茶道の説明とお点前を披露、私はお手伝い。元々が自由時間ですから、プレゼンを聞くも自習するもよし、散歩やおしゃべりするもよし。大学が木々に囲まれ、鹿やリスも遊び、近くに海あり、スーパーあり、私は散歩や買い物から勉強そっちのけで歩き回りました。

このほかに、7 月 1 日の夜には「カナダ・デー」という、いわば「建国の日」の催しがあり、私たちも連れだってヴィクトリア湾へ出かけました。多くの人たちが集まり、花火もあがりました。

6 日午後には海洋博物館へ全員で出かけ、館内にある旧裁判所で裁判がエスペラントで再現されました。再現されると知らなかった私は被告人席に腰かけてしまい、よくわからないまま発言を求められ「XXX」と答え、それがピッタリのはまり文句だったようで大爆笑。ドジを踏んでもただでは起きずに済んだようでした。

こういう午後のプランや様々な情報、投稿は、「FASKO」という毎朝配られる、両面刷りのチラシに掲載されました。

英語圏だけではなく、諸外国からの参加者によるエスペラント発音の違いを聞いたのは楽しく面白い経験でした。

2014.10

辞書プロジェクト Espvortaroj

寺本敏高 (和歌山県)

このプロジェクトは、無料で利用できる電子版のエスペラント辞書を、ブラウザで利用できるようにしようというもので、一応世界中にある辞書(など)を対象としています。ソフトと辞書をダウンロードすると、ネットに接続することなく利用できます。

ホームページはこちらです:

<http://esperanto.mond.jp/#espvortaroj>

主要なブラウザ (IE, Firefox など) で動作しますので、OS に関係なく利用できます。

ブラウザを使ったプログラムのアイデアは 2 年ぐらい前「Movado 誌閲覧ソフト」について福本博次さんとの遣り取りの中で生まれたと思います。このアイデアはまた DVD 版「日本語エスペラント辞典」に引き継がれました。福本さんはまた梶弘和編とエス辞典の電子化もされており、これもブラウザで使えるようにしたいと考えていると、ウェブには他にも無料で利用できる辞書がある、これらも統一されたインターフェースのもとで同時に使えるようになればと考えるようになりました。それが Espvortaroj です。今年 7 月 16 日に初版を公開し、現在の第 2 版では、複数辞書を同時に検索できます。

現在次の 6 つの辞書が収録されています。(1) 梶弘和編、和エス辞典、(2) 広高正昭編、実用エスペラント小辞典、(3) 広高正昭、小野隆夫他編、電子版エスペラント日本語単語集、(4) 野村忠綱編、日エス対照動植物名リスト、(5) Paul Denisowski, Esperanto-English Dictionary、(6) J. C. O'Connor and C. F. Hayes, English-Esperanto Dictionary

使い方は簡単です。使い慣れれば (オプション設定で) 少し高度な使い方もできます。ソフトウェアは公開しており修正も自由です。辞書の追加方法など設定もすべて解説していますので自分にあった使い方もできます。

収録辞書の追加も計画していますが、既にオンラインで動いている辞書も沢山あります。将来は、これらも著作権の侵害なく Espvortaroj の中で利用できるようにしたいと構想しています。

最後になりましたが、辞書データを提供して頂きました方々に感謝致します。地道に作成されたデータなくして Espvortaroj は生まれなかったでしょう。

Vortaro por Lernantoj — Laŭlum

145

supozi: Esti inklina pensi, sen pruvoj certaj; akcepti kiel probabla, ne havante pri ĝi efektivan scion: Mi *supozas*, ke li baldaŭ alvenos.

*Supozu ke vi estus Dio,
Kion vi dirus pri tio?
Li ŝtelis pro malsato,
Ĉar mankas al li ĉio.*

supre: Adverbo singifanta: 1 En alta loko ĉe la ekstremo kontraŭa al la bazo: Mi *sidiĝis supre* de la kesto. 2 En la alta parto de baseno de rivero, urbo: Li *loĝas supre* de la valo. 3 En unu el la antaŭaj paĝoj: Mi ne *ripetos*, kion mi *diris supre*. 4 En pli alta socia situacio: Hodiaŭ *supre*, morgaŭ *malsupre*.

*Supre de la kapo
Kuŝas la hararo,
Kontraŭ suna frapo,
Kiel bona baro.*

surprizi: 1 Alveni, renkonti, trafi (*iun*) subite kaj neatendite: Li *surprizis* la edzinon en la brakoj de ŝia amanto. 2 Mirigi per sia neatenditeco: La novaĵo *surprizis* ĉiujn.

*La uragan' surprizis la vilaĝon,
Kaj kaŭzis al ĝi teruran damaĝon.
La vilaĝanoj perdis ne nur domojn
Meblojn kaj vestojn, ankaŭ la kuraĝon.*

susuri: Eligi sonon malfortan kaj iom sekan, kiel tiu de silkaĵo aŭ papero.

*Agrable la fontan' murmuras
Kaj la arbar' en vent' susuras.
Ĉe floroj papilioj flirtas,
La ekskursantoj tre plezuras.*

ŝafo: Remaĉa besto timema kaj multe bredata pro sia lano kaj viando.

*Ŝafo estas milda besto,
En natura lana vesto.
Kaj krom lano ĝi produktas
Ankaŭ viandon por festo.*

La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La M

後藤齊さんに *Diplomo pro Elstara Agado*

ブエノスアイレスの世界大会の閉会式において世界エスペラント協会から、『日本エスペラント運動人名事典』編集の後藤齊さんに、優れた活動に対する賞“*Diplomo pro Elstara Agado*”の授与が発表された。

Komuna Seminario ホーチミン市で

2014年12月26日～28日、ベトナム・ホーチミン市で。テーマ: *Kunlaboro inter aziaj junuloj*.

日本と韓国の青年団体が1982年に始めた。1995年には中国が参加、2010年にはベトナムでも開催された。ベトナムでのKS開催は今回で2回目。

東かがわ市で世界の人形展 2014

10月3日～10月5日 10時～16時。讃州井筒屋敷ならびに近辺の古民家。エスペランティストの協力で収集した人形を展示する。民族ダンス実演も。

高知の1日入門講座

6月15日に Atilio さんを迎えて開いた「1日入門講座」には、5名の新しい方が参加したが、その中で1名が引き続いての学習を希望した。

通信講座を中心にしながら、月1回は例会に出てきてもらって、発音などをチェックしたり、質問に直接答えたり、重要な所を詳しく説明したりしながら進めることになった。

はりまエスペラント会の新体制

姫路で開催した関西大会の反省会(先月号参照)の席上、峰芳隆さんから病氣治療に専念するために、はりまエスペラント会の役職を辞任するとの申し出があり、相談の結果、今後の運営体制が次のように決まった。会長: 稲田正昭さん(671-1222 姫路市網干区宮内106-3)、事務局長: 多田龍二さん(673-0011 明石市西明石町5-6-2)、会計・KLEG 委員: 塚本猛さん。会へのメールアドレス: harima@esperanto.ne.jp。

九州大学で恒例のエスペラント講座

8月25日から29日まで、1日3コマ(270分)×5日という日程で「速習エスペラント」の集中講義を実施した。受講生は37名。講師は田畑義之教授。

Vortkruca enigmo

Redakcio

Vicigu adekvate 10 literojn trovitajn en la kvadratoj kun steleto. Tiam vi akiros profesion, kies laboro okazas plejofte ekster domo.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de oktobro paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retroŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: (x) signifas, ke la vorto ne portas finaĵon.

1	2	3	4	5	6	7	*	
8		*				9		
10	*		11	*				
		12	*			13		
	14						15	16
17	*					18		
		19	20		21		22	*
23	24	*			25	*		
26				27			28	

Horizontale: 1. La 100-a ~a Kongreso okazos en Francio.(x) 8. Parto de herbo aŭ arbo, estanta en la tero.(x) 9. Ĉu via laboro bone ~as?(x) 10. Mia frato estas pli ~a ol mi je du jaroj.(x) 11.En la lasta somero okazis ne~a pluvego en Japanio.(x) 12. Zamenhof deziris amikiĝon inter diversaj ~oj kaj nacioj.(x) 13. Prefikso montranta unu el la seksoj.(x) 14. Multaj ĉeestantoj ~is la proponitan planon. 15. La taso estas farita ~ vitro.(x) 17. ~ malvarmumo ŝi tudas ekde hieraŭ.(x) 19. Skribo, per kiu oni atestas ricevon de mono aŭ varo.(x) 23. Pronomo pri viro.(x) 25. Verko libere esprimanta pensojn de la aŭtoro.(x) 26. Ne ~ Hiroŝimo, ne ~ Nagasako!(x) 27. Sufikso signifanta elementon aŭ pecon.(x) 28. Fidela al 2014.10

Dio kaj religiaj postuloj.(x)

Vertikale: 1. Planedo, kiu troviĝas inter Saturno kaj Neptuno.(x) 2. Iri sur aŭ en akvo.(x) 3. Reĝ~o estas filo de reĝo, kaj princo estas parenca viro de reĝo.(x) 4. Sezono malvarma.(x) 5. La naskiĝo de Eŭropa Unio estis grava ne nur politike, sed ankaŭ ~e.(x) 6. Besto plej simila al homo.(x) 7. Malgranda besto kun ok kruroj, kiu kaptas insektojn per fadeno.(x) 12. La tempon inter antikva ~ kaj moderna ~ oni nomas mez~on.(x) 14. Konsultu vort~on.(x) 16. Pro laborado sen ripozo mi estas ~a.(x) 17. Tuŝi per mano por ion scii, kio tio estas aŭ kia tio estas.(x) 18. Pagu la kotizon al la kasisto.(x) 20.Pronomo uzata por nomi alparolato(j)n.(x) 21. La ~tremo kaŭzis grandan damaĝon en la urbo.(x) 22. Filo de filo aŭ filo de filino.(x) 24. Oni tondas per tond~o, tranĉas per tranĉ~o.(x)

La solvo al la julia enigmo: **KROKODILO.**

La ĝustan solvon donis ses legantoj: CA, Kacu, festo, 平井 俊佐子, 水渡篤子, 西千寿子.

C	E	N	T	I	M	E	T	R
E	T	E	R	N	Ĉ	I	U	
N		N	E	I		A	S	
T	R	I		K	R	I	M	
R		O	L	E	N		A	
A	G		E	L	E	K	T	R
L	A	M	P		O	L	B	
	R		O	K		I	E	
O	D	O	R		A	N	K	R

楽しい作文教室 12月号課題(10月20日締切)

- ①そのゲームでは複数の言語が使われている。
- ②あなたは外国語副作用を知っていますか?
- ③それは言語の不利とは異なる。
- ④外国語を使うことで、その時の思考は遅くなる。(ヒント) 複数の pluraj、副作用 kromefiko、言語の不利 lingva handikapo、思考 pensado、malsama を調べましょう。日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。送付先： [郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811 塚本 猛 [電子メール] c_tak@esperanto.ne.jp (件名に「作文」の文字を入れてください) 添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

Mikspoto (当欄は敬称略)

☆ 8月4日付毎日新聞夕刊「特集ワイド」の「大反響なかにし礼さんの詩」に、堀泰雄がなかにしの詩をエスペラントに訳してメーリングリストで流し、世界各国から反響があったことを報じている。[←田平正子]

☆ 未来社のPR誌『未来』5月号に、田中里尚による『向井豊昭傑作集 飛ぶくしゃみ』(4月号の本欄で紹介)の書評。その中に「(アイヌ差別解放)運動の現場から離れるとともに、向井は小説に向き合い、日本語そのものへの考察を深めていく。その過程のなかで、人工言語であるエスペラントも独習した。それは自然発生的言語を相対化するために必要な作業であったのではないだろうか」と。

[←峰芳隆]

☆ 文芸誌『すばる』6月号の山田航「読書日録」に、「向井豊昭著、岡和田晃編『向井豊昭傑作集 飛ぶくしゃみ』を読む。向井豊昭という作家は今どれほど知られているだろうか。(略)アイヌやエスペラントをテーマに作品を書き続けた、異端にして反骨の作家である」と。

[←峰芳隆]

☆ 『広島県立図書館かわら版』28号(4月)の「新着参考図書案内」に、『日本エスペラント運動人名事典』。

[←後藤斉]

☆ 早稲田大学アジア太平洋研究センターの『アジア太平洋討究』22号(3月)に、崔学松(Cui Xuesong)「20世紀初期の中国における国際連帯活動とエスペラント受容」。「はじめに」に、「筆者は20世紀前半を中心に東アジアの国際連帯活動におけるエスペラント運動が果たした役割を歴史的に解明する研究を行っている。本稿はその考察の一環として、20世紀初期の中国におけるエスペラント受容をめぐるエスペランティストたちの連帯活動ととりあげ、その実態と意義を検討することを課題とする」と。

[←後藤斉]

☆ 谷垣真理子他編『変容する華南と華人ネットワークの現在』(風響社、2月)の「第2部 北東アジアを舞台にしたネットワーク」に、崔学松「北東アジアにおけるエスペラント運動と国際連帯活動」。内容は、「北東アジアのアナーキズムとエスペラント」「中国革命家と在華朝鮮人」「エロシエンコと在華朝鮮人」[←蒲豊彦]

☆ 福島農産物直売所「えすぷり」が、テレビユー福島「福島くちこみ情報コーナ」8月8日放送で紹介された。「このエスperi、エスペラント語で希望という名のお店なんですね」と。

[←山野敏夫]

訃報

谷博之(タニヒロユキ)さん(8月25日逝去、享年59歳)

大阪外大(現大阪大学外国語学部)で川崎直一さんからエスペラントを学び、現在は大阪大学外国語学部講師。モンゴル語とエスペラント担当。多くの言語を使いこなす poligloto だった。『エスペラントとグローバル化』、『簡明日エス辞典』(関西大会記念品)など多くの著作がある。SATの日本での取次者でもあった。

楽しい作文教室(40)成績

15人の方から応募がありました。()内は留意事項です。
うん、良いね：水渡、Drako、Eiko、Kiri、ikona、Ivajo、M.H.、CA。

良いね：Dalpengi (fraulinon)、AG、Ĉielo (intersigas)、Fumi(saĝon)。

もうひといき：T.Ku (Ludiroj)、alfa (ŝunuretoj)、festo (devas)。

がんばろう：無し。

KLEG

事務局だより

★当連盟は、第101回日本大会を前に“Esenco kaj estonteco de la ideo de lingvo internacia”を発行します。大会会場で手に取ってみてください。

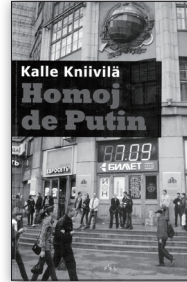
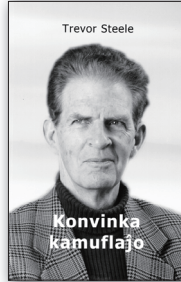
★タニヒロユキさんが8月25日急逝されました。1週間前に事務所に来ていただき、関西大会の記念品になった簡明日エス辞典の著作権料などをお支払いしたばかりでした。まだまだ活躍して欲しかったのに、残念です。ご冥福をお祈りします。

KLEG後援会へのご寄付(2014年8月、敬称略)

梁池忠夫	1,200円
宝木実	1,100円
中道民広	1,100円
平岡五城	600円
宮沢直人	500円
野々村耀	167円
吉藤昭英	70円

他に峰芳隆さんから関西大会など共同行事に利用して欲しいと、以下のDVDの寄付がありました。

Esperanto-Pasporto al la tuta mondo,
La Duonokulvitro, Gerda malaperis
ご支援、ありがとうございます。



★ 新刊・新着 ★

- 簡明日エス辞典** 1400円
 タニヒロユキ編著。使いやすいと好評の『簡明エスペラント辞典』の姉妹編が待望の刊行。初級中級の学習者はもちろん上級レベルの人でも携帯して使える簡便な日エス小辞典。目にやさしい版組。見出し語 11000。派生語を含めた総語数は 13000。日本エスペラント図書刊行会刊行。B6版、216p.
- Brîgo kun veneno** 1000円
 Ronald Cecil Gates によるミステリー最新作。舞台はブリッジ愛好者が集うクラブ。ゲームよろしく繰り広げられる駆け引きの顛末は。A5版、91p.
- Konvinka kamuflaĵo** 2600円
 "Neniu ajn papilio", "Memori kaj forgesi" などで知られるオーストラリアの人気作家 Trevor Steele の自叙伝。A5版、270p.
- Homoj de Putin** 2000円
 "La silenta plimulto de Rusio" が副題。フィンランド人 Kalle Kniivilä がプーチン体制下のロシアに暮らす人びとの声を集める。A5版、165p.

★ 追悼タニヒロユキさん ★

- 簡明エスペラント辞典** 1400円
 タニヒロユキ編著(2013年第2版)。現代人のための新しい実用辞書。見出し語 4000。派生語を含めた総語数 12500。動詞には活用形を示す。
- エスペラント単語練習帳** 1200円
 タニヒロユキ著。基本の 1300 語を効率よく習得。「英語が得意な人の注意すべき単語」等付録も充実。

- エスペラント会話教室 [新訂版]** 1000円
 竹内義一原著、タニヒロユキ改訂。基本会話表現の文例を多数収録。会話歳時記も実践的な内容。
- エスペラントとグローバル化** 900円
 タニヒロユキ著。「国際と民際」「民際語と積極的中立主義」など《民際語》とはなにかを問う。

★ verkoj de Trevor Steele ★

- Aŭstralia Felix** 1800円
Diverskoloro 1400円
Flugi kun kakatuoj 2000円
La fotoalbumo vol.1 2300円
Kvazaŭ ĉio dependas de mi 2500円
Memori kaj forgesi 900円
Neniu ajn papilio 2000円
Sed nur fragmento 2400円
- ★ krimromanoj de Ronald Cecil Gates ★
- Mortiga ekskurso** 1400円
Sep krimnoveloj 900円

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



☆ タニヒロユキさんの急逝はショックでした。臼井裕之さんに追悼文を書いていただきましたが、他の方の思い出話も近いうちに特集する予定です。

☆ 楽譜「哀しみのソレアード」は、メロディをご存知の方も多いでしょう。原題の "Soleado" は、スペイン語で「日当りのよい場所」の意味だそうです。掲載の歌詞は鳥谷剛さんのオリジナルです。(相川節子)

発行所：ラ・モバード社 編集：小西 岳 発行人：北 さとり 定価280円 送料60円 1年3800円 送料共本局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204
 電話 (06) 6841-1928 ファクス専用 (06) 6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.jp
 振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://kleg.jp
 九州支局：九州エスペラント連盟内 818-0105 福岡県太宰府市都府楼南 2-8-7 武藤たつこ方 電話 (092) 923-2877
 中国四国支局：中国四国エスペラント連盟内 734-0041 広島市南区黄金山町 7-15 忍岡守隆方 電話 (082) 286-2745
 印刷人：村 上 治 道 621-0815 京都府亀岡市古世町北古世 82-3 株式会社 天声社